



役場のアトリウム・オブジェ

作品名 「受話樹」

作者 森本千絵さん

「思いをつなぐ【声】の大切さを表現」



平成28年1月26日(火)

この日、梶原町は昨日の大雪が残り、雪景色でした

その梶原へ

建築家の隈研吾氏が来町されました。

隈研吾氏と親交のある
アートディレクター森本さんのオブジェを
ゆすはら役場に設置したお披露目に
合わせて来町された。

(一年間設置される予定)



式の様子



隈研吾氏

「自然と人間を結び付ける象徴のようで”梶原っぽい”梶原にあれば、作品にとってすごく幸せ」

「この(建物の)空間のために作ったんじゃないかというくらい、ぴったりのバランス。非常にうれしい」

1月27日高知新聞より

矢野町長

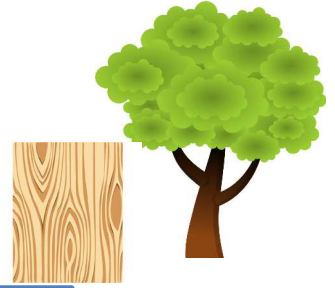
これから梶原が向かおうとする未来への、シンボルの一つになるように思います。「受話樹」のコンセプトはまさに合っていると思います。





「木の恩人」

隈研吾氏は高知県高岡郡梶原町の事を親しみを込めてこう表現します。



2020年東京五輪で使う新国立競技場のデザインを手がけ、東京大学教授も務める建築家隈研吾氏『(木造芝居小屋)【ゆすはら座】を最初に見て、木に囲まれた空間に圧倒される思いがしまして。「ああ、こういう空間を私は欲しかったんだ」と。木を大事にして生きるということが私の建築哲学のベースで、それを教わったのは梶原と言っても過言じゃありません』

『最初に木に出会ったのはこの梶原町。それから20年間くらい、「木をもう一回建築に取り戻す」ということをやって、最終的に新国立で提案できた。そういう意味では、梶原から新国立までは一つの流れでつながっているわけです』

1月28日高知新聞より



梶原町に点在する隈研吾氏設計の建築物



① 梶原町役場



② 雲の上のホテル

③ 雲の上のギャラリー



まちの駅、内部

④ まちの駅・マルシェ



ギャラリー内部